

「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の
重要業績評価指標（KPI）の達成状況等について

■ 「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」とは

国の長期ビジョンや総合戦略を勘案しつつ、角田市における人口の現状と将来の展望を提示する人口ビジョンを策定し、これを踏まえて、7か年（平成27年度～令和3年度）の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた地方版の総合戦略である。



国の交付金を受け、市民や高校生へのアンケート調査を実施し、「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」において検討を重ね、平成28年1月に策定し、その後、次期長期総合計画と次期総合戦略を一体的に策定するため、令和2年3月に変更（計画期間の2年延長）を行った。

■ 政策目標の設定と検証

「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、角田市における7年後の基本目標とこれに係る数値目標を設定している。

基本目標① 内発的産業の振興による安定した雇用の創出

数値目標	策定時	目標(令和3年度)
従業者数(人)	14,409(平成26年)	15,267

基本目標② 地域資源を活かした移住・定住の推進

数値目標	策定時	目標(令和3年度)
転入者数(人)	925(平成26年)	1,000

基本目標③ 若い世代が子どもを産み育てやすい環境の整備

数値目標	策定時	目標(令和3年度)
子育て支援の環境や支援に関して満足していると思う市民の割合(%)	15.6(平成25年度) (満足2.1+やや満足13.5)	30.0

基本目標④ 安全・安心で住み続けたいくなる「まちづくり」

数値目標	策定時	目標(令和3年度)
角田市に住み続けたいと思う市民の割合(%)	52.4(平成27年度)	70.0

また、基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向と具体的な施策を記載し、各施策の効果を客観的に検証できる指標(重要業績評価指標(KPI※1))を設定している。

なお、政策の進捗状況について KPI で検証し、改善する仕組み(PDCA サイクル※2)を確立するとともに、外部有識者会議等を含む検証機関として「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」を設置し、基本目標に係る数値目標や具体的な施策に係る KPI の達成度を検証するものとしている。

※1 KPI…Key Performance Indicator の略。
達成すべき成果目標を指す。

※2 PDCA サイクル…Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。

■ 重要業績評価指標 (KPI) の達成状況

基本目標に係る数値目標	4 項目
具体的な施策に係る重要業績評価指標 (KPI)	35 項目

令和2年度の達成状況については、4項目からなる基本目標に係る数値目標及び35項目からなる具体的な施策に係るKPIで分析を行っている。なお、調査時点(令和3年5月末時点)で基本目標①に係る数値目標の実績値が把握できていない。(令和3年度実施の経済センサス活動調査の結果公表により実績値が確定する。)

また、具体的な施策に係る KPI 全35 項目中、事業の完了等により令和3年度の目標値を設定していない7項目については、担当課での現状分析等の評価は行っているものの、今回の達成状況の集計には含めていない。

なお、以下の表における達成状況については、次のとおり整理している。

達成(○)	令和2年度の実績値が令和3年度と同値もしくはこれを上回ったもの
達成見込(↗)	令和2年度の実績値は令和3年度の目標値に達していないが、令和3年度の実績値が目標値に達することが見込まれるもの
要努力(↘)	現時点において、令和3年度の目標値に達することが難しく、今後、特に重点的な取組を行い目標値の達成を目指すもの
算定不能(ー)	現時点において、達成状況を把握することができないもの(条例の制定や計画の策定などを目標にしている指標等)

【具体的な施策に係る KPI の達成状況(全体)】

達成状況	令和元年度		令和2年度	
	指標数	割合	指標数	割合
達成	6	21.4%	6	21.4%
達成見込	6	21.4%	7	25.0%
要努力	13	46.5%	13	46.5%
算定不能	3	10.7%	2	7.1%
合計	28	100.0%	28	100.0%

- ・ 「達成」及び「達成見込」が計13項目、「要努力」が13項目と、昨年度とほぼ同様の結果となり、半数が達成困難な状況にある。
- ・ 『「こめ・まめ・うめ」を活用した新たな特産品の開発数』や「角田市役所における男性職員の育児休業取得率」といった指標が今回新たに「達成」となった一方で、令和元年東日本台風災害や新型コロナウイルス感染症対策の影響により、昨年度達成していた道の駅かくだ、阿武隈急行線の利用者数に関する指標が「要努力」となった。
- ・ 特に「要努力」とした指標のうち、イベント等の集客数や施設の利用者数を指標としているものについては、現状の全国的な新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑みると、達成が非常に難しい状況ではあるが、状況を見定めながら、必要な対策を十分に講じた上で、目標達成に向けた取組みを進める。

【具体的な施策に係る KPI の達成状況（基本目標ごと）】

達成状況	基本目標① 内発的産業の振興による 安定した雇用の創出		基本目標② 地域資源を活かした 移住・定住の推進	
	指標数	割合	指標数	割合
達成	2	28.5%	2	25.0%
達成見込	1	14.3%	3	37.5%
要努力	3	42.9%	3	37.5%
算定不能	1	14.3%	0	0.0%
合計	7	100.0%	8	100.0%

達成状況	基本目標③ 若い世代が子どもを産み 育てやすい環境の整備		基本目標④ 安全・安心で住み続け たくなる「まちづくり」	
	指標数	割合	指標数	割合
達成	2	33.3%	0	0.0%
達成見込	0	0.0%	3	42.9%
要努力	3	50.0%	4	57.1%
算定不能	1	16.7%	0	0.0%
合計	6	100.0%	7	100.0%

- ・ 基本目標①については、『「こめ・まめ・うめ」を活用した特産品の開発数』などで伸びを見せているものの、半数近くが「要努力」である。特に農業関連の指標に「要努力」が多く、高齢化を主な要因とする担い手の減少が課題であるため、経営体の法人化と新規就農を一層推進し、足腰の強い「農林業」の再生を目指す。
- ・ 基本目標②については、移住・定住等の推進に関する指標は順調な伸びを見せ、「達成」及び「達成見込」の割合は 6 割を超えているものの、数値目標である転入者数は減少傾向にあることから、施策の見直しを検討する必要がある。

また、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、「道の駅かくだの入込客数」や「かくだスポーツビレッジの年間利用者数」が大幅減となったことから、感染症の拡大防止に努め、客数及び利用者数の回復を目指す。
- ・ 基本目標③については、半数が「要努力」であり、さらに数値目標である「子育て支援の環境や支援に関して満足していると思う市民の割合」も 13.8%（平成30年度「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査」結果が最終値）と、令和3年度目標の 30.0%を大幅に下回った。子育て支援に関する指標の目標値の達成に対する非常に厳しい状況が浮き彫りとなったため、今後、益々加速する少子化の影響を考慮しつつ、施策の見直しを検討する必要がある。
- ・ 基本目標④については、令和元年東日本台風災害の影響により、阿武隈急行線利用者数の減少や幹線市道の改良の遅れが見られることから、半数以上が「要努力」であり、数値目標である「角田市に住み続けたいと思う市民の割合」も 60.4%（令和2年度「市民アンケート調査」結果が最終値）と、策定時よりも上昇したものの令和3年度目標の 70.0%には届かなかった。

また、「防災対策の市民満足度」が 31.8%（令和2年度「市民アンケート調査」結果が最終値）と、令和3年度目標の 70.0%を大幅に下回ったことなどから、令和3年4月に策定した角田市国土強靱化地域計画に基づき、必要な事前防災及び減災等に資する施策を総合的かつ計画的に実施することにより、安全・安心で住み続けたいまちづくりを推進する。